

○計画期間：平成27年3月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成29年度は、酒田市に外国船籍のクルーズ船として初めて「コスタ・ネオロマンチカ号」が寄港した。ふ頭には市民らが詰め掛け、子どもたちのダンスや吹奏楽の演奏、酒田の大獅子と日吉丸の展示などで迎え、夜は約300発の花火で見送り、地域の「おもてなし力」を十二分に発揮した。また10分間隔でシャトルバスを走らせることにより、乗客やクルーを街なかへ誘導し、観光案内所やカフェ、甲冑・着物の着付け体験のコーナーなどを設けるとともに、スタンプラリーなどの企画を開催して、乗客やクルーに喜んでもらうことで中心市街地が活気づいた。今年度も大型クルーズ船が入港する予定で、リピーターを増やし観光交流人口を増やすために市をあげて取り組んでいく。

計画期間は、中間年となる3年目を終えた。計画区域の中心に位置する中町エリアにおいて、新市庁舎が完成し、空きビルを再生する「中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業」として実施した、「中町にぎわい健康プラザ」も平成29年4月にオープンした。これまで53,350人の施設利用があり、また、前述のクルーズ船が来航した際には観光案内所として活用することで、幅広い年齢層から来街してもらうきっかけにもなり、にぎわいの創出に繋がっている。

施設整備により、中町モールを行き交う人が増えてきているが、買物など周辺商店街への波及効果、酒田駅前や、点在している観光施設からの回遊性、民間投資の促進という面ではまだまだ課題が多い。

これまで整備した北前横丁「屋台村」、「中町モールにぎわい創出フードコート整備事業」で整備した「回転寿司トボス」、焼き鳥店「鳥放題」、「てとて中町」においても、にぎわいを創出しており、今後は、完了した事業やキーとなる事業の連携を図り、より高い相乗効果が発揮されるよう、官民の連携を強化して目標達成に向けた取り組みを行っていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（中心市街地地域）	平成26年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	2,627	2,537
人口増減数	-55	-29
社会増減数	-18	6
転入者数	80	59

※人口は、1/1時点、人口増減数、社会増減数については、期間内の実績の集計。

2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 27 年 3 月から取組んでいる中心市街地活性化基本計画は、3 年目が終了した。全国的にも、中心市街地活性化は厳しい状況が続いているが、熱心に研鑽を重ね取組むことで、新市庁舎や屋台村がにぎわい、駅前再開発も着実に進んでおり心強く思っている。また、中町のにぎわい創出に寄与する新産業会館の再開発は、工事着工に向け進んでいるところである。

今年度完成した中町にぎわい健康プラザでは、高校生などの利用も増えており、若い人がマシンを使って体を動かしている状況は喜ばしいことであり、中心市街地に来るきっかけとなっている。今後は、来街者を回遊させるという課題について、官民が連携して取り組んでいかなければならないと考えている。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量	2,718 人 (H26)	2,779 人 (H31)	2,513 人 (H29)	①	②
	商店街空き店舗数	99 件 (H26)	83 件 (H31)	103 件 (H29)	①	②
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,571,285 人 (H25)	1,648,000 人 (H31)	1,512,391 人 (H28)	①	④
街なか交流人口の増進	公共・公益施設利用者数	363 人 (H25)	953 人 (H31)	502 人 (H29)	①	①
	居住人口(参考指標)	2,651 人 (H26)	2,651 人 (H31)	2,562 人 (H29)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」について

最新値（平成 29 年 4 月調査）は、基準値と比較して 7.5%（205 人）悪化しているが、昨年度より 9.6%（220 人）改善した。調査地点のうち、一番多くの割合を占める中町モールの通行量が増加しており、これは、中町にぎわい健康プラザの完成、隣接する北前横丁「屋台村」、複合施設「てとて中町」、地元百貨店におけるフードコート整備事業など、計画事業が順調に進んでいる結果と考えられる。また、中町モールにおいては、平成 30 年 4 月に完成した「中町モール改修事業」「中町モール大屋根整備事業」により、中町モールをハブとして周辺施設のにぎわいを面的に繋ぎ合わせ、減少トレンドの回復が図られ来街者の回遊性を高めることにより、更に増加すると見込んでいる。

しかしながら、駅前地区、大通り商店街については、来街の拠点となる施設がないこともあり、

減少トレンドに歯止めがかかっていない。駅前の拠点となる「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業」の着実な推進、中心市街地活性化基本計画とは別に取組んでいる、平成 28 年度に策定した公共交通網形成計画により、エリア間の公共交通を見直すことによる回遊性の向上を図る必要がある。

「商店街空き店舗数」について

最新値（平成 29 年 8 月調査）は、基準値と比較して 4.0%（4 件）悪化している。中心市街地まちづくり推進センターと創業支援センターで、市と商工会議所が一体となって積極的な商店街振興施策を展開しており、従来には無かった業種や形態の店舗開業に至っている。一方で、既存店舗における後継者不在や建物の老朽化などによる空き店舗化が問題となっている。そのため、「商店街空き店舗ツアー」を行うなど、新しい視点で事業に取り組み、各店舗のバックヤード見学や店主との交流を深める企画も実施しているが、平成 29 年度の調査において、「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用がかかる」などの理由により、貸す意思がない空き店舗が 30 店舗弱あることが分かり、目標指標の改善を押し下げる要因となっていることが分かった。

この課題解決に向けては、空き店舗が合理的になっている環境を変えていく必要があるが、不動産オーナーの意識を改善することも重要であり、新規に事業掲載した、「産業振興まちづくりセンター」において、不動産オーナーをはじめとした地域のニーズとシーズを集めつなぐことにより、産業振興、農商工連携の推進、若者・女性の活躍促進を目指すとともに地場産業の活性化を促していくことにより貸す意思を持ってもらえるよう仕掛けていく。また、屋台村をはじめとした施設の魅力を牽引役として生かし、今後の「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」等による経済効果や都市環境の向上により、民間の投資を促していく必要がある。

「観光施設入込数」について

最新値（平成 28 年度累計）は、基準値と比較して 3.7%（58,894 人）減少している。平成 27 年度累計は、「山居倉庫」（夢の倶楽）や、港エリアの拠点施設である「酒田みなと市場」を中心とした観光施設が増加傾向であった。平成 28 年度は、全国豊かな海づくり大会やまがたが開催され、港エリアをはじめとした中心市街地に非常に多くの観光客が訪れたが、観光施設入込数は減少した。個別の施設をみても、ほぼすべての施設において観光客が減少する結果となり、基準値を下回った。

平成 30 年度に実施する、「街なかサイン事業」や、公共交通網再編計画などによる回遊性の向上、建物の老朽化により事業の実施が遅れている主要事業の「旧割烹小幡改修事業」、事業内容を見直ししている「山居倉庫周辺整備事業」を確実に遂行することが必須である。

また、中心市街地だけでなく、市全体の観光施設入込数が減少傾向にあることから、外航クルーズ船の誘致をはじめ、鳥海山・飛鳥ジオパークや、日本遺産となった北前船寄港地といった市の資源を生かした、更なる観光政策を取っていくことで、観光客を増やし、歴史的資源を多数有する中心市街地の観光施設へ観光客を誘導していく。同時に、中心市街地に位置する本市で最大の入込数を誇る「山居倉庫」を史跡として指定することで、周辺を含め魅力あるエリアを形成し、中心市街地の観光交流人口を増やしていく。

「公共・公益施設利用者数」について

最新値（平成 29 年 9 月調査）は、基準値と比較して 21.2%（77 人）増加した。これは、「中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業」で整備した、「中町にぎわい健康プラザ」がオープンしたことによるものである。市民交流や街なか回遊のための「集いのスペース」や、一階の扉をオープンにすることで、隣接する平成 30 年 4 月に完成した中町モールと一体で、利用することができ、今後民間事業者が実施する中町モールイベント事業を核としながら、天候に左右されずに活用できるメリットを活かし絶えず人が集まり、街なか回遊の起点となるよう運用していく。

中町庁舎においては、平成 29 年 10 月にマザーズジョブサポートセンター庄内が開設され、一人ひとりのニーズに応じた総合相談を行っている。また、市役所新庁舎 1 階において、健やかさかたヘルスケア推進事業の一環として、障がい者就労支援カフェ「え〜る」が、平成 30 年 3 月にオープンした。今後も、施設が幅広い年齢層に来街してもらうきっかけとなり、来街者が増えるようまちづくりを進めていく。健康関連のイベントや、サークル活動といった多様な市民活動やランチ会やミーティング、勉強会などの交流が中心市街地で持続的に行われることで、目標達成は可能であると見込まれる。

「居住人口（参考指標）」について

「居住人口」は、参考指標として位置づけているものであり、基準値の水準を維持することを目標としている。最新値（平成 29 年 9 月）は、基準値と比較して約 3.4%（89 人）減少しているが、前年同期と同数値であった。人口減少は市全体の問題であるが、市全体における中心市街地の居住人口の割合としては前年度と比較した場合、改善している。計画区域の中心部において、高齢者向け住宅を含む複合施設「てとて中町」がオープンし、民間事業者による開発等、街なか居住の動きが出てきている。また、「空き家等総合対策事業」では、新たに空き家情報サイトの開設し、ストックの活用や流動化を促進する事業を展開している。

市でも、移住推進施策や住宅改善支援施策を継続して実施し、居住誘導を進めており、今後、計画事業を着実に実施するとともに、相互の連携によって都市機能の魅力をさらに向上させることによって、街なか居住の気運を高め、人口社会動態の改善に向けた取り組みを行っていく。このことから、目標達成は可能と見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量」については、平成 28 年度のフォローアップで、事業内容を見直した「中町モール改修事業」「中町にぎわい健康プラザ」が完成予定であり、目標は達成可能（①）と見込んでいたが、事業が完成した後も施設利用者が周辺の商店街や、観光施設などの他の施設に回遊していないため、事業効果が指標に現れておらず、駅前地区、大通り商店街の減少傾向が駅前の再開発にかかる工事のため暫定駐車場を廃止したことにより、当初の想定以上に大きいことから②と評価した。

「商店街空き店舗数」については、平成 28 年度のフォローアップで、従来には無かった業種や形態の店舗開業に至っており「商店街空き店舗ツアー」を行うなど、これまで行っていた資金面や運営面の支援だけではなく、新たに開業希望者に複数の店舗を不動産業者のアドバイスを得ながら内見するといった視点での事業に取り組むことで目標は達成可能（①）と見込んでいたが、平成 29 年度の商店街の空き店舗調査において、「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用が

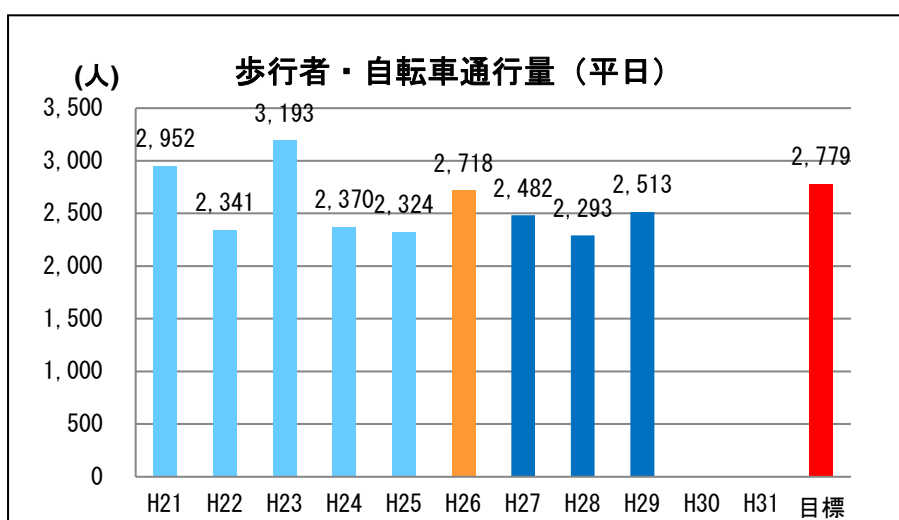
かかる」などの理由により、貸す意思がない店舗が 30 店舗弱あることが分かり、目標指標の改善を押し下げる要因となっていることが分かったため、②と評価した。

「観光施設入込数」については、平成 28 年度のフォローアップでは、鳥海山・飛島ジオパークの認定、北前船寄港地の日本遺産の指定などの観光資源の注目度の高まりを生かした PR 効果が見込まれたため、目標は達成可能（①）と見込んでいた。しかし、平成 28 年度は全国豊かな海づくり大会が行われるなど、例年よりも多くの人々が市に訪れたものの、観光施設の入込数はリピーターが少なくなっていることなどから減少しており、また、主要事業となる「山居倉庫周辺整備事業」と「旧割烹小幡改修事業」が、事業内容の見直し、施設の老朽化などにより、当初想定では平成 30 年度に山居倉庫周辺の事業構想の策定、改修工事完成予定であったが、1 年間事業スケジュールが遅れていること、平成 29 年度においても、初となる外国クルーズ船の寄港などがあったものの減少傾向が見られることから④と評価した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,718 (基準年値)
H27	2,482
H28	2,293
H29	2,513
H30	
H31	2,779 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年 4 月の第 4 火曜日に 3 地点において 7～19 時で計測

※調査月：平成 29 年 4 月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の 3 地点における歩行者及び自転車の通行量

[ジャスコ跡地前、大通り商店街、中町モール]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町モール改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成 29 年度【済】
事業概要	中心商店街のシンボリック歩行者専用道路をリニューアル改修し、イベント広場機能や憩いの場としての快適な公共空間として強化整備を行うもの。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度に設計業務を行い、平成 29 年に工事に着工したが、地質調査の結果、大屋根の設計に変更の必要性が生じたため、当初予定から 1 ヶ月遅れ、平成 30 年 4 月に完成した。路面改修に加え、

	<p>回遊性や滞留性、イベント利便性を高めるための機能（子ども水遊び施設や大屋根の整備等）を追加導入した。にぎわい健康プラザと一体となった利活用をしていくことによりにぎわいの創出につなげていく。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加20人/日である。</p>
--	--

②. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業完了時期	平成29年度【済】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内ににぎわい交流施設を整備し、中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年12月に第1期工事、平成29年6月に2期工事、平成30年3月に付帯駐車場や外構整備が完了し、新庁舎がフルオープンした。新庁舎内に整備した「にぎわい交流サロン」では、来街者が待ち合わせなどに気軽に利用している姿が見られ、設置された観光パンフレットやイベント情報に接するなど、市民交流や情報発信の場になっており、施設では116人/日の利用者があった。市庁舎全体では919人/日の利用があり、にぎわい交流サロンやフリースペースを拠点として街に出て行く姿が見られ、通行量の増加につながっている。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加109人/日である。</p>

③. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、市民交流や街なか回遊のための「集いのスペース」と、健康づくりの拠点となる「健康増進スペース」を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>平成29年4月に「中町にぎわい健康プラザ」としてオープンし、これまで53,350人の利用があった。調査日においては116人/日の利用であったが、オープンしてからマシンスペースを中心に利用者が増えている。施設が面する中町モールの改修が終了し、今後はイベント等のソフト事業による活用や、他の計画事業との連携により、にぎわい創出のための工夫ある運用を図っていくことで、通行量の増加につなげていく。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加84人/日である。</p>

④. 食のさかたチャレンジ事業（酒田北前横丁屋台村運営協議会）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	飲食業を志す人を対象に、安価な家賃でのトライアル店舗の開設を実施し、将来の担い手育成、にぎわい創出を行うもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年10月、空き店舗跡地に屋台村「北前横丁」がオープンし、平成28年3月には、整備した10店舗すべてで営業を開始した。市内外を問わず多くの来客があるうえ、工夫あるイベントを企画・実施するなど、まちのにぎわいと活性化を意識した運営を行っており、通行量の増加につながっている。 目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加94人/日である。

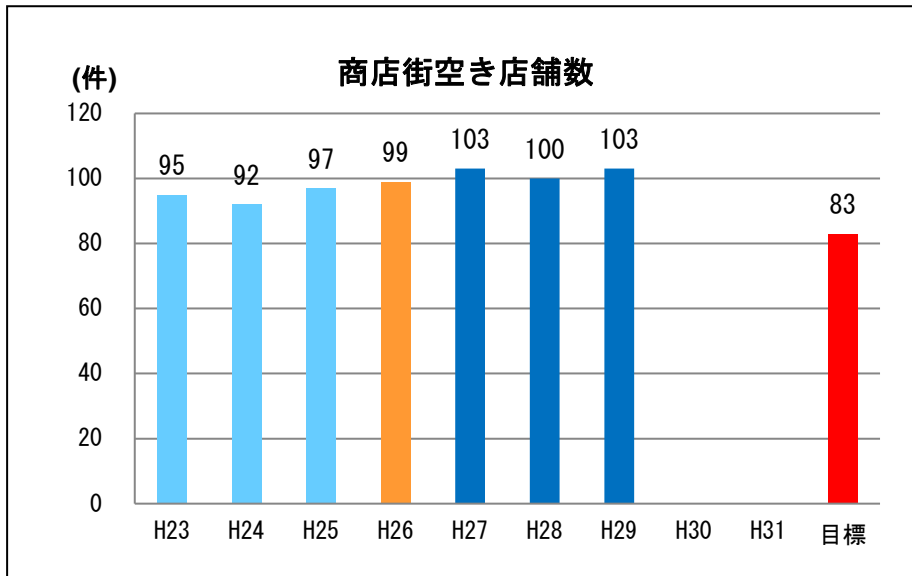
●目標達成の見通し及び今後の対策

取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。中町モールにおいては、昨年度よりも指標が伸びており、平成30年4月に完成した「中町モール改修事業」「中町モール大屋根整備事業」により、中町モールをハブとして周辺施設のにぎわいを面的に繋ぎ合わせた各ソフト事業との連携、減少トレンドの回復が図られ来街者の回遊性を高めることにより、今後増加が見込まれる。

しかしながら、駅前地区、大通り商店街については、来街の拠点となる施設がないこともあり、減少トレンドに歯止めがかかっていない。駅前の拠点となる「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業」の着実な推進、事業のPR効果による経済効果や都市環境の向上により、民間の投資を促していく必要がある。また、中心市街地活性化基本計画とは別に取組んでいる、平成28年度に策定した公共交通網再編計画では、平成31年度に新規路線の実証実験が予定されており、エリア間の公共交通を見直すことによる回遊性の向上を見込んでいる。

「商店街空き店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 73～P. 76 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H26	99 (基準年値)
H27	103
H28	100
H29	103
H30	
H31	
H31	83 (目標値)

※調査方法：商店街の空き店舗、毎年8月に5商店街において現地調査

※調査月：平成29年8月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5商店街における空き店舗数

[中町中和会商店街、中通り商店街、大通り商店街、酒田駅前商店街、協同組合たくみ銀座]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗改装助成事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者、又は当該店舗を賃貸する者に改装費を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
事業効果及び進捗状況	官民連携によって開設された「中心市街地まちづくり推進センター」（平成23年4月開設）が所管して事業展開しており、各種商店街振興サービスのワンストップ化を図っている。 目標指標の対象となる商店街では、平成28年度に6店舗、平成29年度に8店舗が交付実績となり、空き店舗数の悪化防止に寄与している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、「空き店舗入居者支援事業」と合わせ、空き店舗数の減少15件である。

②. 空き店舗入居者支援事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者の賃貸借料を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。

事業効果及び進捗状況	<p>官民連携によって開設された「中心市街地まちづくり推進センター」(平成23年4月開設)が所管して事業展開しており、各種商店街振興サービスのワンストップ化を図っている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街では、平成28年度に4店舗、平成29年度には6店舗が交付実績となり、空き店舗数の悪化防止に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、「空き店舗改装助成事業」と合わせ、空き店舗数の減少15件である。</p>
------------	--

③. 創業促進事業 (酒田市・酒田商工会議所)

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	創業支援センターを開設し、創業相談のワンストップ化や創業塾等を実施し、空き店舗の活用を含めた新規開業を促進するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>創業支援センター(平成26年9月開設)では、創業支援コーディネーターがワンストップで対応しているほか、開業後のフォローアップも行っており、多くの相談が寄せられている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街では、創業支援を受け、平成28年度に8店舗、平成29年度に4店舗が新規開業している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、空き店舗数の減少5件である。</p>

④. 産業振興まちづくりセンター(仮称)整備・運営(酒田市)

事業完了時期	平成31年度【平成29年度追加事業】
事業概要	企業間の交流を図る拠点となる、産業振興まちづくりセンター(仮称)整備運営するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>地場企業、農林水産事業者及び市内の個人・グループのニーズとシーズを集め、「つなぐ」ことにより、産業振興、農商工連携の推進、若者・女性の活躍促進を目指すとともに、企業間の交流を図るための拠点を中心市街地に整備するもので、平成30年4月にオープンした。平成30年6月にコワーキングスペースとしてグランドオープンを目指しており、中心市街地に拠点を置くことで、産業の活性化、交流人口の増加が見込まれ、新たな出店が期待される。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

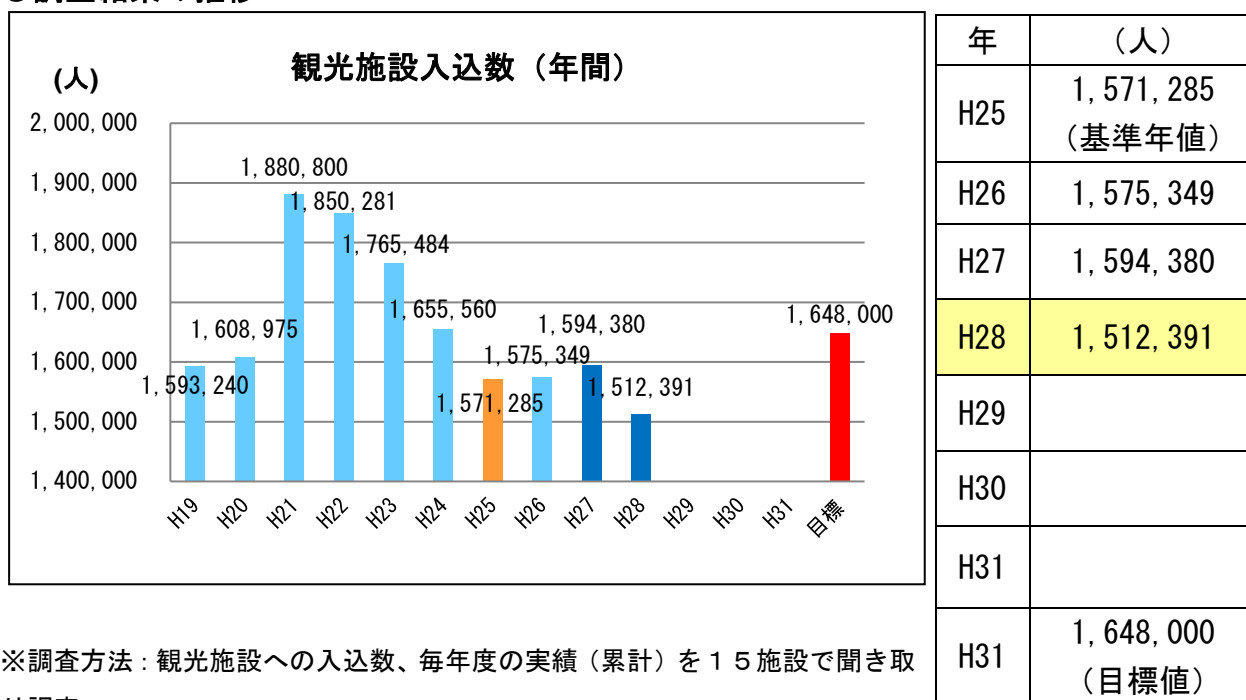
取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。中心市街地まちづくり推進センターと創業支援センターで、市と商工会議所が一体となって積極的な商店街振興施策を展開しており、従来には無かった業種や形態の店舗開業に至っている。一方で、既存店舗における後継者不在や建物の老朽化などによる空き店舗化

が問題となっている。そのため、「商店街空き店舗ツアー」を行うなど、新しい視点で事業に取り組み、各店舗のバックヤード見学や店主との交流を深める企画も実施しているが、平成 29 年度の調査において、「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用がかかる」などの理由により、貸す意思がない店舗が 30 店舗あることが分かり、目標指標の改善を押し下げる要因となっている。

このような課題解決に向けては、空き店舗が合理的になっている環境を変えていく必要があるが、不動産オーナーの意識を改善することも重要であり、新規に事業掲載した、「産業振興まちづくりセンター（仮称）」において、不動産オーナーをはじめとした地域のニーズとシーズを集めつなぐことにより、産業振興、農商工連携の推進、若者・女性の活躍促進を図ることで地場産業の活性化を促していくことにより貸す意思を持ってもらえるよう仕掛けていく。また、屋台村をはじめとした施設の魅力をにぎわいの牽引役として生かすとともに、今後の「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」等による経済効果や都市環境の向上により、民間の投資を促していく必要がある。一方で、民間においても中心市街地の不動産を活用した、人を呼び込むための新たな魅力・価値を見出す検討が行われており、官民の連携を強化していく必要がある。

「観光施設入込数」※目標設定の考え方基本計画 P. 76～P. 79 参照

●調査結果の推移



※調査方法：観光施設への入込数、毎年度の実績（累計）を 15 施設で聞き取り調査

※調査月：平成 28 年 4 月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の 15 施設における入込数

[山居倉庫（酒田夢の倶楽）、さかた海鮮市場、みなと市場、旧白崎医院、旧燈屋、海洋センター、山王くらぶ、本間家旧本邸、庄内米歴史資料館、海向寺、相馬楼、資料館、NK エージェント（旧割烹小幡）、山居館、本間美術館]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山居倉庫周辺整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【未】
事業概要	本市で最大の観光入込数を誇り、シンボルである山居倉庫の周辺にある低・未利用地において、山居倉庫と一体的な環境整備を行うもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に本市で策定した「中長期観光戦略」との整合性、市民意見や民間活力を生かした整備内容の検討の必要性、また、山居倉庫を史跡に指定する方針としたことによる、事業内容の見直しの必要性から、当初予定より1年事業進捗が遅れている。今後、具体的な整備計画を策定し、平成31年度の完成を目指していく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加36,500人である。

②. 旧割烹小幡改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【未】
事業概要	映画「おくりびと」のロケ地として注目を集め、その建物の持つ歴史的、文化的価値が見直されている旧割烹小幡を改修し、新たな観光拠点として整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に「中長期観光戦略」を策定し、平成28年度に市民意見を取り込むためのワークショップを実施した。その後老朽化が進み、危険な状態になったことから、安全対策に関する調査実施したことで事業進捗が当初予定より1年遅れている。調査の結果を踏まえ、保存活用していく方向を決定し、平成29年度に市民説明会を行った。平成30年度以降に設計、整備を行っていく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加25,000人である。

③. 中心市街地循環バス運行事業（酒田市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	公共交通機能を充実させ、中心市街地内の回遊性向上を図るための社会実験として、拠点施設や観光施設を巡回するバスを運行するもの。
事業効果及び進捗状況	社会実験として平成27年度に事業を実施し、136日間でバス運行を行った。累計3,159人が利用し、全体の約59%が中心市街地内の停留所で乗降しており、観光客の回遊性向上に寄与した。

④. みなと市場まつり事業（酒田市みなと市場テナント会）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	港エリアの観光拠点のひとつである「酒田みなと市場」を生かし、みなとオアシスならではのイベントを開催するもの。
事業効果及び進捗状況	昨年に引き続き、酒田市みなと市場テナント会の協力のもと、プロレス団体によるチャリティー大会を開催し、約150人の観客が訪れた。鋭意、観光客入込数増加にむけた、イベントを開催している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加1,000人である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

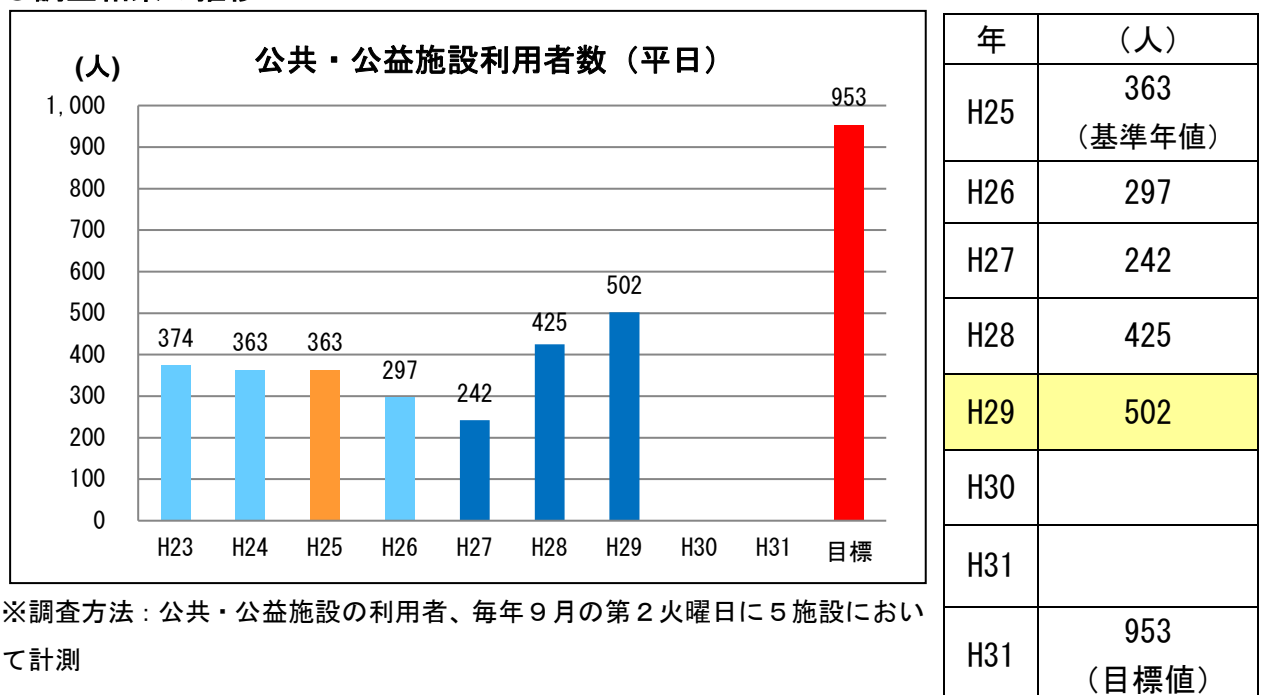
主要事業となる「山居倉庫周辺整備事業」と「旧割烹小幡改修事業」が、事業内容の見直し、施設の老朽化などにより、事業スケジュールが遅れている中で、観光施設全体の入込数が減少していることから、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

外航クルーズ船の誘致をはじめ、鳥海山・飛鳥ジオパークや、日本遺産となった北前船寄港地といった市の資源を生かした更なる観光施策を取っていくことで、観光客を増やし、歴史的資源を多数有する中心市街地の観光施設へ誘導していく。同時に観光地としての魅力拡大を図るため、中心市街地に位置する本市で最大の入込数を誇る「山居倉庫」を史跡として指定し、周辺を含め魅力あるエリアとすることを目指し、中心市街地の観光交流人口を増やしていく。

また、酒田の自然を生かしたインバウンド向けの体験型ツアーの計画、ツーリズムセンターの設置計画など交流人口拡大のための新たな観光事業が、民間が主体となって企画されており、このような事業をきっかけに、今後更に官民の連携を強化して目標達成に向けた取り組みを行っていく。

「公共・公益施設利用者数（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P.79～P.81 参照

●調査結果の推移



※調査月：平成29年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5施設における利用者数

[交流ひろば、街なかキャンパス、市庁舎（にぎわい交流施設併設）、中町庁舎（改修整備）、中町にぎわい健康プラザ]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、市民交流や街なか回遊のための「集いのスペース」と、健康づくりの拠点となる「健康増進スペース」を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成29年4月に「中町にぎわい健康プラザ」としてオープンし、これまで53,350人の利用があった。健康づくりの拠点としての活用のほか、イベント等のソフト事業による活用を含め、他の計画事業と連携し、工夫ある運用を図っていく。調査日においては、116人/日の利用であったが、オープンしてからマシンスペースを中心に利用者が増えており、目標設定時に見込んだ事業効果である、施設利用者数の増加200人/日の達成を目指す。

②. 中町庁舎改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	中心商店街に隣接する空き庁舎予定の公的不動産を有効活用し、市民活動や文化活動等の拠点としてリニューアル整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成29年度にマザーズジョブサポートセンターが入居し、働きたいがブランクのある方、仕事と家庭・子育てと両立できるか悩んでいる方、子どもの預け先の情報がほしい方など、一人ひとりのニーズに応じた総合相談を行っており、子育て世代が街なかに来るきっかけとなっている。空いているスペースについては、市民活動や文化活動の様々な分野の活動拠点の検討を継続しており、平成31年度の完成を目指していく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加130人/日である。

③. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業完了時期	平成29年度【済】
--------	-----------

事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内ににぎわい交流施設を整備し、中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年12月に第1期工事、平成28年6月に第2期工事中、平成30年3月に付帯駐車場や外構整備が完了し、新庁舎がフルオープンした。「にぎわい交流サロン」では、来街者が待ち合わせなどに気軽に利用している姿が見られ、設置された観光パンフレットやイベント情報に接するなど、市民交流や情報発信の場になっており、施設では116人/日の利用者があった。目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加260人/日であるが、市庁舎全体では919人/日の利用があり、平成30年3月にオープンした、障がい者就労支援カフェ「え〜る」などをアピールし、にぎわい交流サロンやフリースペースを気軽に利用してもらうことで、達成は可能と見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

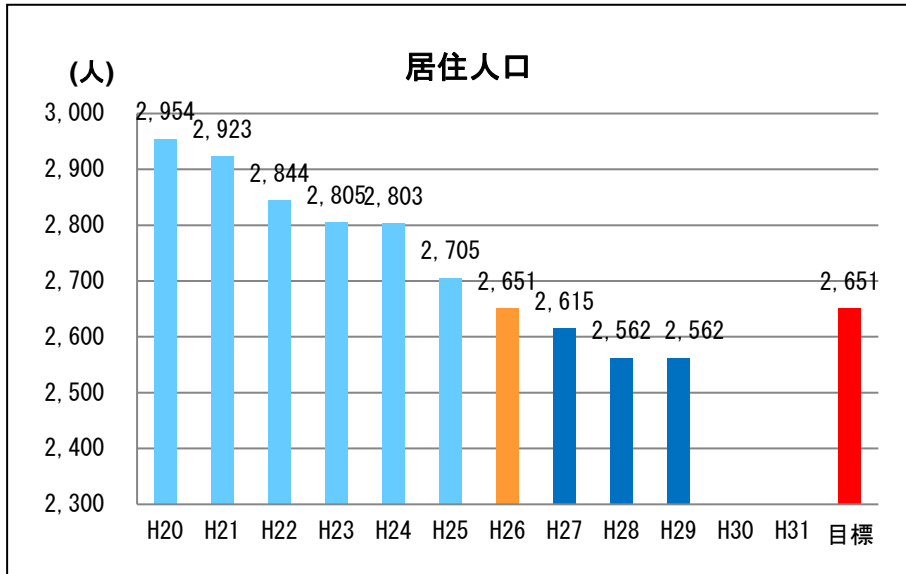
取組（事業等）の進捗状況が順調であり、。平成29年4月に「中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業」で整備した、「中町にぎわい健康プラザ」がオープンした。マシンスペースをはじめとして、健康増進ゾーンの利用が増えており、集いのスペースも健康関連のイベントや、サークル活動に利用され、施設全体の利用者が増えきている。

中町庁舎においては、平成29年10月にマザーズジョブサポートセンター庄内が開設され、働きたいがブランクのある方、仕事と家庭・子育てと両立できるか悩んでいる方、子どもの預け先の情報がほしい方など、一人ひとりのニーズに応じた総合相談を行っており、子育て世代が街なかに来るきっかけとなっている。今後市民活動や文化活動の様々な分野の活動拠点を整備することで、更に利用者が増えることが期待される。

また、付帯駐車場や外構工事が完成し、フルオープンした市役所新庁舎1階において、健やかさかたヘルスケア推進事業の一環として、障がい者就労支援カフェ「え〜る」が、平成30年3月にオープンした。市庁舎に新たな機能を持たせたこと、工事が完成したことにより、にぎわい交流サロンも含めた市庁舎への来館者が増えてきており、今後も、施設が幅広い年齢層に来街してもらうきっかけとなるような施設利用を行いながら、多様な市民活動や交流が持続的に行われることで、目標達成は可能であると見込まれる。

「居住人口（参考指標）」※目標設定の考え方基本計画 P. 81～P. 82 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,651 (基準年値)
H27	2,615
H28	2,562
H29	2,562
H30	
H31	
H31	2,651 (目標値)

※調査方法：居住人口、毎年9月末時点での住民基本台帳により12町丁で調査

※調査月：平成29年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の12町丁における居住人口

[船場町一丁目、船場町二丁目、日吉町二丁目、幸町二丁目、二番町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、山居町一丁目]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 【追加】てとて中町整備事業（株福祉のひろば）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	中心商店街に位置する空きビルを再生し、高齢者向け住宅やフィットネス施設、カフェ等の複合施設として整備するもの。
事業効果及び進捗状況	高齢者向け住宅として20戸が整備され、平成27年10月にオープンした。現在のところ、満室には至っていないが、今後の街なか居住人口の増加が期待される。また、フィットネス施設やカフェ等の機能を有しており、中心商店街という立地環境もあわせ、世代を超えた地域コミュニティの増進に寄与している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。計画区域の中心の中町において、高齢者向け住宅を含む複合施設「てとて中町」がオープンしたことで、民間事業による街なか居住の動きが出てきている。また、「空き家等総合対策事業」では、新たに空き家情報サイトの開設し、ストックの活用や流動化を促進する事業を展開している。

市でも、移住推進施策や住宅改善支援施策を継続して実施し、居住誘導を進めており、今後、

計画事業を着実に実施するとともに、相互の連携によって都市機能の魅力をさらに向上させることによって、街なか居住の気運を高め、人口社会動態の改善に向けた取り組みを行っていく。このことから、目標達成は可能と見込まれる。